

《担当者名》 歯学部教授 / 中山 英二 歯学部講師 / 中谷 温紀 歯学部助教 / 杉浦 一考

【概要】

歯科衛生士としての業務範囲で行い得る放射線業務について理解するとともに、それらの基本となる事項を把握することを目的とする。

【全体目的】

歯科衛生士としての基本的知識を把握すること。

【学修目標】

- 電離放射線に関する物理的及び生物学的な基本的知識を獲得する。
- 電離放射線を含む画像検査の種類と特徴、及びその利用法についての知識を獲得する。
- 電離放射線を含む画像検査による正常画像解剖の知識を獲得する。
- 各種画像検査による疾患の基本的な特徴を理解する。
- 電離放射線の人体に対する影響を理解し、放射線防護の基本理念と具体的な防護方法の知識を獲得する。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1) 4	歯科衛生士の行える放射線業務の範囲 電離放射線の定義と種類 X線の発生 X線の作用と性質 X線の減弱 線量と線質	歯科衛生士としての業務範囲を正しく理解し、法律に違反しないように知識を整理することを目標とする。 放射線、特に日常用いることの多いX線については、発生や性質および生体に対する作用などを関連づけて理解することが必要である。	中山 英二
5) 6	X線像の成立 X線フィルムの種類と構造 X線フィルムの現像処理 X線フィルムの良否 デジタルX線撮影法	X線像の成立についての理論を良く理解することが重要である。また、現像操作については日常極めて重要な業務となるので、理論、手技ともに良く理解することが必要である。	中谷 温紀
7) 8	撮影法と正常像 種々の病変とX線像	放射線業務の補助的部分を、歯科衛生士として行える範囲で理解することを必要とする。	中谷 温紀
9) 10	放射線の生物に対する影響 放射線障害 放射線防護 放射線治療の知識 その他の関連知識	患者や術者に対する放射線の影響とそれらの防護についての知識を修得する。 放射線治療の方法や放射線治療患者の口腔管理について学ぶ。 CT、MRIなどの特殊検査について、歯科領域での役割について学ぶ。	杉浦 一考
11) 15	X線撮影法	これまでの講義内容を復習して臨床実習に対応した講義・実習を行う。 歯科領域のX線撮影法についての知識を習得して理解する。	杉浦 一考

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

定期試験100%

【教科書】

「最新 歯科衛生士教本 歯科放射線」 医歯薬出版

【参考書】

「歯科放射線学 第6版」 岡野友宏、他 編集 医歯薬出版

【学修の準備】

指定した教科書の「最新 歯科衛生士教本・歯科放射線」を事前に読んでおくこと。(30分)

事前に授業範囲を予習し、専門用語や知識を理解しておくこと。(30分)